

第117号

TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE ALUMNI ASSOCIATION NEWS

[発行] 東京農業大学校友会 〒156-0054 東京都世田谷区桜丘3丁目9-31 電話 03-3429-1983 FAX 03-3427-2271 [編集発行人] 校友会会長 三好吉清

東京農業大学 校友会ニュース

農大スポーツの強化を要望

平成26年度 全国支部長会議



議長の小野修一山梨県支部長

報告者



鈴木崇之栃木県支部長



小松山善継福島県支部長



小林徳成鳥取県支部長



太幡正樹岐阜県支部長



小野甲二事務局長



三浦盛久大分県支部幹事長

アカデミアセンター横井講堂で開催

平成26年度校友会全国支部長会議が2月20日午後1時から、世田谷キャンパスアカデミアセンターの横井講堂で、学校法人東京農業大学の澤貫寿理理事長、東京農業大学・同短期大学の高野克己学長らを来賓に迎え、全国から77人が出席して開催された。

全国教職員部会連絡協議会を設立

小泉幸道副会長の開会の辞に続き、主催者を代表して三好吉清会長があいさつ、大澤理事、高野学長から大学の近況などを交えて来賓のあいさつがあった。校友会小野甲二事務局長の司会で来賓を紹介した後、平成26年度中に交代した5人の新支部長(2人欠席)が自己紹介した。次に、司会から校友会功労者2人が紹介された。

野学長、校友会からは外園副会長および小野事務局長から回答、それに基づき質疑・応答など全体討議が行われた。主な討議事項は次の通り。
①学校法人に関する事項
・125周年記念事業資金募金で建設予定の国際センターの具体案と必要性
②大学に関する事項
・卒業生教員の資質向上および卒業生教員の比率向上
・箱根駅伝など農大スポーツの強化およびPRの強化
・推薦入試枠の拡大などと特殊技能者基準の新設
・教育後援会地方懇談会の毎年開催
・東京農大経営者大賞の選考基準の明確化

は、物心両面でのご支援をお願いしたい(要旨)と回答した。

(2) 教職員部会の組織化と活動強化対策について
外園副会長から教職員部会の現状と課題について報告。少子化に伴う18歳年齢の減少が見込まれる現状に対処するため、教職員部会はその専門的立場から、地域後継者など入学志願者の確保を最重要活動とする必要がある、全国教職員部会連絡協議会を組織化して大学に協力支援する必要があることを提案。「支部長会議」として組織合意した。

(3) 報告・連絡事項
最後に、大学創立125周年記念事業資金の募金状況などについて本部から報告。学校法人、大学および校友会が一致協力して東京農業大学の発展のため、尽力することを再確認。外園副会長から来る5月22日の通常総会への参加をお願いして閉会した。

新たな一歩に期待 平成26年度 3426人に学位授与

平成26年度学位授与式が3月20日、世田谷キャンパス桜丘アリーナで大学院農学研究科・応用生物科学部・地域環境科学部・国際食料情報科学部・短期大学の合同で挙行了。翌21日には厚木キャンパス体育館で大学院農学研究科・農学部、17日にはオホーツクキャンパスで大学院生物産業学研究所・生物産業学部の学位授与式がそれぞれ行われた。着物やはかま姿の学生も多く、各キャンパスが華やかに彩られた。3キャンパス合計3426人の卒業生が、慣れ親しんだ学びやから人生の新たな一歩を踏み出した。



世田谷キャンパス(3月20日)



厚木キャンパス(3月21日)



オホーツクキャンパス(3月17日)

式後、会場を学科ごとに移し、所属の教員から卒業生一人一人に卒業証書や記念品などが手渡された。授与後は、卒業証書を手記念撮影をし、しばし仲間や恩師との語らいの時間を過ごした。

平成27年度 3446人が入学

実学主義を誓う



世田谷キャンパス(4月2日)



オホーツクキャンパス(4月4日)

平成27年度入学式が桜咲く4月2日、世田谷キャンパス桜丘アリーナで大学院農学研究科・農学部・応用生物科学部・地域環境科学部・国際食料情報科学部ならびに短期大学部が合同で挙行了。式典には、海外協定校のスリランカ民主主義

高野学長が「東京農業大学は今年で創立124年を迎えた。新入生の皆さんは、大学という未来への扉の前に立ち、これから卒業までの間、大いに本学の教育研究の理念「実学主義」を実践し、未来への扉を開けるよう努めてほしい。そのためわれわれ教職員は研究室を中心に教育研究を通して、全力でサポートしていくこと。それを受け、農学部の平尾安佐子さんが「今日の入学の喜びを忘れることなく、東京農業大学の教育の理念である「実学主義」の下で勉学に励み、将来、社会に貢献できる人材となるため、日々努力していくことをここに誓う」と新入生を代表して、抱負を述べた。

支部長の皆さまには、日頃から多大のご支援・ご協力を賜っていることに感謝申し上げます。

この会議は、校友会の理念である「会員相互の親睦を厚くし、会員の社会活動を助長、福祉の向上を図り、あわせて、東京農業大学および短期大学の発展に寄与すること」を再確認する場として毎年開催しております。各支部の意見・要望などについて、組織的な検討を行う評議の場であり、校友会ならびに母校の発展に資する意義ある会議であります。本日の主な議題は、ブロック会議で提起された問題について、検討を行うことですが、昨年2月の支部長会議以降の主要活動などについて振り返り、返ってみたいと思っております。

◆ 全国支部長会議 あいさつ 要旨 ◆

東京農業大学校友会会長 三好 吉清



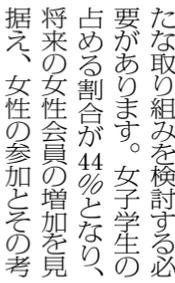
昨年3月7日の会議では、次期の校友会比例代議員数の見直しを行うことを提案し合意をいただき、5月23日の平成26年度通常総会において機関決定して各支部に配分しました。

125周年募金については、目標に向けて鋭意活動していただいておりますが、1月現在、目標の約50%に当たる一億円となっております。その苦勞に感謝します。なお、昨年7月23日には校友会出資の株農大常磐松から600万円、(有)農大桜丘から400万円、合わせて1000万円を大学に寄付致しました。

平成27年度地域後継者推薦については、40支部から98人推薦されましたが、11

月24日に全員合格しました。この入試制度については、多くの支部から拡充・改善の要望が出されておりますが、農大独自の制度です。われわれは、その与えられた制度の枠内で、精いっぱい支援・協力を行うという基本的な考えをもって、28年度も優秀な生徒のご推薦をお願いいたします。18歳人口が減少していく中で、校友会は志願者の確保について、大学を支援しなければならぬとの思いもあり、各支部の教職員部会の活動強化対策について、本日提案しております。

本年度の支部総会は2月末までに41支部で開催されました。若年者や女性の参加など課題も山積する中



は出場することができず残念な結果に終わりました。箱根駅伝や硬式野球部など農大スポーツの強化について、大学のお考えを本日も聞きたいと思っております。

昨年度の台湾に続く、海外協定校訪問・海外支部との交流については、本年度は17人が参加して、12月1日から4泊5日の日程でタイを訪問しました。タマサート大学、カセサート大学を訪問するとともに、タイ支部校友との交流・懇親を深めてまいりました。1月17日には、農友会学生150人を招待して校友会主催の農友会激励会を開催運動部や文化部で農大の名声を高めた10団体・個人15人に会長表彰を授与しました。

◆ 要旨 ◆

東京農業大学校友会会長 三好 吉清

大学が発展方向の中

た。大学の発展方向の中

た。大学の発展方向の中

現在のわが国の人口減少問題と首都圏と地方経済の格差は大きな政策課題となっております。また、大学の教育環境を取り巻く状況も大きく変わりつつあります。2007年が大学全入時代と言われ、それから約10年が経過しました。この間、国では教育再生実行会議、中央教育審議会などにおいてさまざまな教育施策改革が進められてきています。

2020年問題、いわゆる大学への進学を目指す18歳人口が減少していく、まさに少子化時代に向けてさまざまな大学がその対策を進めています。今は大学の定員問題が、国に厳しく管



◆ 来賓祝辞 要旨 ◆

学校法人東京農業大学理事長 大澤 貫寿

8割と言われています。少子化時代を迎える中で、これが大学にとって大きな問題であるわけですね。

ご承知のことと思いますが、今、地方の活性化を図るための地方創生戦略政策が推進されようとしていま

す。地方から三大都市圏への人口の流れを抑制し、逆に、各種戦略施策によって地方への人の流れを加速させる。地方の活性化を図ろうとする大きな政策が実行されようとしています。その戦略政策の中で、地方の私

の人材育成を進めていくべきか、今が正念場であると考えています。また、地方創生政策では地方の大学とさまざまな産業と産学連携を図りながら、人口の流れを逆にして、地域の活性化を進めようとするものであ

考えています。東京農大も地方の大学もどう生き残るか。まさに大学本来の教育の高度化を進めなければ生き残ることができません。このことを国際化や学生の状況を踏まえ、考えなくてはならないと思っております。

このような政治・経済・社会情勢の中で、東京農大はさらなる改革を学長の下で進めています。学校法人としても学内外のインフラ整備を進めてきております。世田谷キャンパスにおいても、アカデミアセンタリーに続く次の再整備に向けて、検討を進めています。また、厚木キャンパスでも、現在、学生会館を建設中で

最後に大学創立125周年記念事業資金の募金では多大なご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げますとともに、引き続き大学運営へのご支援をよろしくお願ひ申し上げます。



◆ 来賓祝辞 要旨 ◆

東京農業大学学長・同短期大学部学長 高野 克己

昨年4月から副学長3人と各学部長の協力の下で大学運営に当たっています。

大学と校友会との関係は大学運営上非常に重要です。どのような距離感をもって、どのような相互関係にあって協力・支援関係を築いていくかということが、本学は全国ネットの大学であります。他大学に比べ校友会支部組織がしっかりしていると思いますので、各支部の皆さまが本学の良いところを紹介・周知していただいていることに大変感謝しております。

地方大学の活性化のため文科省による三大都市圏にある大学の補助金や入学定員に対する厳しい報道がなされております。従来、入学者数は入学定員の1.3倍まで認められ、1.2倍未満であれば補助金をいただけました。それが今年になって1.1倍までと言わ

かということになります。本学を含むすべての大学において、教職員、学生、保護者および卒業生OBと連携をとって、この難局を乗り越えなければならぬということでもあります。卒業生の方々の距離感を保ちながら、お互いに協調・協力していく必要があります。大学にとってOBの方々の

地域での活躍が一番の広報PRとなると思っております。テレビ、新聞などのPRも重要であります。一番は農大にご理解のあるOBの皆さまのそれぞれの活躍であります。足腰の強い東京農大をつくるために、校友の皆さまの積極的な支援活動をお願いしたいと思います。

その中で大学の目指す方向性をどうやって実現する

また、本日ご出席の皆さまをはじめ全国の校友に対して、学長としてお詫びしなければならぬ件があります。昨年11月下旬に本学教授が不法薬物所持で逮捕された事件がありました。大変ご迷惑をお掛けし心よりお詫びしたいと思います。大学でも調査を進め、本人を懲戒解雇処分にする

保しましたが、その多くが学科併願していただきますので実質受験者は1万1000人ほどです。昨年同様併願を入れての受験者であり、実質の志願者減少は300人ほどとご理解ください。近年の受験者は無理や高望みをして、自分のレベルにあった大学を受験する傾向にあります。本学は各学

18歳人口の減少は、大学全体の問題として大きな課題となっております。現在は120万人。これが5、6年続き、平成43年には100万人を割ると言われています。1年間に大学生になる数は60万人。進学しない学生もいるわけで、これら学生が進学してくれば数は足りる計算ですが、進学率は55%で頭打ちの状態です。

今後とも、本学の隠れた良いところを強化して、本学の実力と名声を高めていきたいと思っております。ご支援方よろしくお願ひします。

本学が、さらに高い評価を受けるためには、優秀な学生を集め、社会で活躍できる人材を育成することが必要と考えています。

文科省においては、大学改革に四つの柱を示しています。

一つは、教育研究の聖域なき改善、社会ニーズにあった教育・研究。

二つは、大学の産業界との連携、就職先の確保。

三つは、地域と大学との組織的な連携強化。

四つは、海外との連携・グローバル化の推進。

本学は農学系総合大学として、1万3000人の学生が頑張る、高く評価されています。

母校だより

大学、中・高校教員の人事

(順不同・敬称略)

Table with columns for university names, departments, and faculty names. Includes entries for Tokyo University of Agriculture, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, etc.

定年を迎えた先生

安藤 元一 教授

大阪府出身。昭和48年国際基督教大学教養学部理学科卒業。社会人を経て60年九州大学大学院で農学博士の学位を取得。...

後藤 逸男 教授

昭和50年大学院農芸化学専攻修士課程修了。平成7年に教授。本学の基本理念である「実学主義」に基づき、農業生産現場に密着した土壌学を旨として日々教育・研究に尽力されてきた。

中里 厚美 教授

昭和48年農学部醸造学科卒業。民間企業に勤務。49年に農学部醸造学科助手、講師、助教授を経て平成10年に博士(農芸化学)の学位を取得。...

佐藤 和夫 教授

昭和24年名古屋市生まれ。京都大学農芸化学科卒業。47年国税庁採用、醸造

学会賞など受賞者紹介

Table with columns: 公表月日, 受賞名, 受賞者名, 受賞内容等. Lists various awards and recipients from October to March.

(注：10月～3月まで。その他、優秀発表賞など多数。東京農業大学ホームページ(学術)参照。公表月日は同ホームページ公表日。)

善・食糧学会、日本栄養改善学会を始めとする栄養・食品学分野の多くの学会において要職を務められました。...

門間 敏幸 教授
昭和47年農学部農業拓殖学科卒業。農林水産省に入学し、東北農業試験場に配属されました。...

橋詰 良一 教授
北海道北見市出身。昭和48年農学部畜産学科卒業。50年農学研究科を修了。...

宮田 正信 助教
昭和48年農学部農学科卒業。54年同学科助手に就任。平成18年からは農学部新設されたバイオセラピー学科の人間植物関係学研究室の教員として新分野の教育普及にあたりました。...

小林 純 教授
昭和47年農学部林学科卒業。49年東京農工大学大学院林産学専攻修士課程修了。...

高橋 久光 教授
昭和47年3月農学部農業拓殖学科卒業。49年3月東京教育大学大学院修士課程を修了後、同年5月に農業拓殖学科助手に就任。...

西澤 信 教授
北海道出身。昭和48年東京工業大学理学部化学科卒業。昭和50年同大学院理工学研究科化学専攻修士課程修了。...

増子 孝義 教授
北海道出身。昭和52年に帯広畜産大学大学院修了。53年に東京農業大学短期大学助手。平成元年から農学部畜産学部長に就任。...

鈴木 和春 教授
昭和47年農学部畜産学部長を兼ね、50年農学部畜産学部長を兼ね、58年に農学部畜産学部長に就任。...

横濱 道成 教授
青森県出身。昭和47年農学部畜産学科卒業。49年農学研究科を修了。...

加藤 雅義 准教授
昭和45年短期大学農学科を卒業され、48年農学部農工学科卒業。...

佐藤 和夫 教授
昭和24年名古屋生まれ。京都大学農芸化学科卒業。47年国税庁採用、醸造味のテニスでは、学内ス

ポーツ大会で、学生を圧倒する活躍でした。試験所勤務。平成16年工学博士(広島大学)。...

佐藤 和夫 教授
昭和24年名古屋生まれ。京都大学農芸化学科卒業。47年国税庁採用、醸造味のテニスでは、学内ス

佐藤 和夫 教授
昭和24年名古屋生まれ。京都大学農芸化学科卒業。47年国税庁採用、醸造味のテニスでは、学内ス

佐藤 和夫 教授
昭和24年名古屋生まれ。京都大学農芸化学科卒業。47年国税庁採用、醸造味のテニスでは、学内ス

持ち味を発揮 盛り上がった農大収穫祭

世田谷キャンパス

9万人でにぎわう

農大最大の学生イベント「収穫祭」が、平成26年10月31日から11月2日まで開かれた。今回で123回を迎える収穫祭のテーマは「育てよう『みどり』と未来への夢」。学生たちはおのおの持ち味を十二分に発揮した。学生たちの努力により、9万人近くの来場者でにぎわった。



醸造両科統一本部のみそ販売



全学応援団によるリーダー公開

人気の蜂蜜販売、醸造両科統一本部のみそ販売の他、今回の収穫祭では、野菜販売や郷土料理などの幅広い種類の模擬店が出店した。1号館内では農大ならではのユニークな研究内容や文化系クラブの活動内容などを展示した文化芸術展が行われ、全学応援団によるリーダー公開などのステージ企画、各門で行われた門装飾なども多数の来場者にお楽しみいただけたのではないだろうか。また、体育祭では熱のこもった競技、世田谷・厚木キャンパスの学科対抗の応援合戦が繰り広げられた。



文化芸術展では研究内容などを説明

今回も雑誌など、多くのメディアに紹介され、高い評価をいただけたことができた。現在、学生間ではすでに第124回収穫祭の各役員が選出されており、より充実した収穫祭に向けての活動が始まっている。

体験企画に長蛇の列



多くの人でにぎわった模擬店

厚木キャンパス(農学部)の第15回収穫祭が平成26年11月1、2日の2日間にわたり開催された。初日はあいにくの雨模様で来場者が少なく心配されたが、2日目は好天にも恵まれ、2日間で合計3万1千1百7人の来場者を数えた。

来場者を見ると、厚木近隣住民はもとより神奈川県全域、さらには県外からも多数訪れ、例年以上のにぎわいをみせていた。

模擬店では約60団体が出店し、多くの店で行列ができ、来場者と学生が入り乱れ、活気にあふれていた。

文化芸術展では各研究室による農学部の特徴を生かした展示に、年配から小さな子どもまでもが真剣に見入る姿がうかがえた。

厚木キャンパス

特別ステージ企画では、学生会館建設工事により体育館での実施となつたため、幸い雨の影響を受けず各団体熱いステージを繰り広げた。恒例体験企画では、11月1日の親子参加型芋掘り体験「いも園」と野菜無料配布は瞬間に長蛇の列ができた。



親子参加型芋掘り体験の「いも園」

初の体育祭も開く

オホーツクキャンパスにおける第26回収穫祭が平成26年10月11日、13日の3日間開催された。今年度は、オホーツクキャンパスの4学科がさらにつながりあい、収穫祭が今まで以上に盛り上がるようにとの願いを込めて「袖(つむぎ)を統一テーマにした。前夜祭は、あいにく悪天候で模擬店ができなかったものの本祭1日目・2日目には天候も回復し、校友の皆さまや地域の方々を含め5000人以上の来場があった。今年度も応援団リーダー公開やサケのつかみ取りなどの学生たちが活躍する企画を通じて、東京農業大学の伝統と農大生のいきじを来場いただいた多くの方々に感じていただけた。

さらに、平成26年9月19日には本キャンパスにおいて地域の皆さまとの交流競技も交え、初の体育祭も開催された。今年度も収穫祭や体育祭を通して、学生間の絆や教職員との一体感の一層の高まり、さらには、地域とのつながりをより深めるものとなった。

本キャンパスでは例年、収穫祭期間中には「校友のつどい」も同時に開催している。懐かしい顔との出会いやオホーツクキャンパスの雰囲気を感じていただくために、校友の皆さまには、第27回の収穫祭に足をお運びいただくことを願っている。



5000人以上が訪れた収穫祭

オホーツクキャンパス



サケのつかみ取り

盛況だった模擬店

食と農の博物館だより

昨年度は当博物館の開館10周年だった。初めての試みとして、民俗学的視点からの企画展示「農と祈り」―田の馬、神の馬―を世に問うた。展示空間のデザインに専門のデザイナーの参加を得たのも初めて。「農と祈り」展が過去から現在の「農」への日本人の思いを表現したものとして、次の企画展示「バイオミメティクスを超えて!」―昆虫などの生き物や自然に学ぶものづくり―は未来の「農」の可能性を探るものである。このように1年を通して一貫したテーマで企画展示を発表したのもまた初めてのことである。今年も食と農を根幹とした大きな世界観をバックボーンに面白い活動ができそう。ぜひ「食と農」の博物館に注目していただきたい。

企画展示

『ふたつの教育研究の世界』展
(1) 学術情報課程 その教材と研究資料
(2) 応用生物科学部5学科合同展示―伝統技術から最先端のバイオテクノロジーまで―

期間
平成27年4月1日(水)～8月3日(月)

趣旨
開館11年目の今年、「食と農」の博物館は東京農業大学そのものを発信するという原点に立ち返り、かつ10年にわたって蓄積してきた博物館としてのノウハウを駆使して新たな1ページを重ねる。その新たな一歩として、東京農業大学の教育研究の実績と成果を今ま

大島宏行 生物応用化学科助教
【体験ワークショップ】
○ 遺伝子実験体験ワークショップ
5月31日(日)12時30分～14時
伊藤晋作 バイオサイエンス学科助教
○ 酵母が生み出すお酒の魅力
6月27日(土)13時30分～15時
中山俊一 醸造科学科准教授
○ オレンジジュースと人工イクラを作ってみよう
7月18日(土)14時～15時30分
菅谷紘一 食品安全健康学科助教
山根拓実 食品安全健康学科助教
【ギャラリートーク】
8月2日(日)11時～3日(月)11時
※ギャラリートークは(1)学術情報課程その教材と研究資料―展だけが対象。担当は博物館学芸担当の黒澤弥悦教授。

でにない視点で紹介する。一つは博物館を裏で支える学芸員の養成課程である学術情報課程、もう一つは最先端のバイオテクノロジーを駆使する応用生物科学部5学科の展示。以後この『教育研究の世界』展はシリーズ化の予定。このシリーズを通して東京農業大学の現在を知っていただきたいと思う。

講演
○ 塩分と高血圧
5月16日(土)13時～14時
田中越郎 栄養科学科教授
若菜宣明 栄養科学科助教
○ 野菜栽培は健康な土づくりから
6月13日(土)13時～14時

10月期からは特別展『女わざと自然のかかわり』―農を支えた北東北の布たち―展が始まる。期間は10月14日(水)から翌年3月13日(日)まで。
詳細については次号の校友会ニュースで紹介する。
その他の展示や催事については当博物館ホームページでご確認ください。

農大方式で「そま復興米」

4年間の取り組みと今後の方向

東日本支援プロジェクトリーダー・国際バイオビジネス学科教授 門間敏幸

①東日本支援プロジェクトの結成とその理念

東京農業大学では、3・11東日本大震災直後に学



直前に被災地を訪れた大澤学長（現・理事長）も参加した震災後の現地視察。あまりの被害のすごさ

生や教員から自然発生的に「被災地の支援に役立ちたい」「被災地の農業の復興に今こそ立ち上がるべきである」という声があふき上がった。こうした声を真摯（しんし）に受け止めた大澤貴寿学長（現理事長）は、迅速に東日本支援プロジェクト

を組織化し、自ら陣頭指揮し5月1日から支援対象地に選出した福島県相馬市で支援活動を展開した。見渡す限りの田畑が津波によってがれきりとドロに覆われたあまりの被害のすさまじさに、本気で復興が出来るかどうか、また私たちに何が出来るのかを考え、途方にくれたことは今でも脳裏に焼き付いている。



相馬の農業に希望の灯りをともした「そま復興米」の贈呈式

②これまでの主要な成果とその普及

(1)津波被害地域の農地・土壌の復元の取り組み

津波被害水田の復旧に関しては、土壌肥料チームによって東京農大方式（微量要素が豊富に含まれる津波土砂を土と混ぜて、酸性対策として転炉スラグを使う）と呼ばれる津波水田

③放射能汚染地域復興の取り組み

放射能汚染地域の復興には、土壌肥料、森林、農業経営の三つのチームが全力投球した。森林チームは、深刻な被害が予想された森林の放射能汚染実態調査を南相馬市の森林を対象に実施した。

4年間にわたり相馬地方で展開した東京農業大学の東日本支援プロジェクトは、津波被災農地の復元、放射能汚染地域の復興、森林の放射能汚染のメカニズムの解明、農地一筆を単位とした放射能モニタリングシステムの開発など、被災地の復興・復興に貢献できる成果を実現し、地域の人々から大きな信頼を得ることができた。

その結果、枝葉や樹皮の部分に付着した放射性物質は樹木の内部にまで浸透していることがわかった。こうした状況の中で、森林や柿園の除染方法としてカリウム散布の有効性、柿の木の中に浸透したセシウムの除去方法に関する技術について試行錯誤した。土壌肥料チームは、土壌に高濃度に蓄積したセシウムを作物が吸収しない技術の開発に取り組んだ。具体的には吸収抑制資材としてカリウムとゼオライトの活用方法の検討を行い、効果的な施用方法を解明して農家に提案した。農業経営チームは、農地一筆を基本とした放射性物質のモニタリングシステムの開発に、放射能汚染が深刻な問題となっていた相馬市玉野地区を対象に取り組んだ。水田、畑、牧草地の放射能汚染の実態を把握するとともに、除染効果の評価、放射性物質吸収抑制技術を適用した場合の効果の評価できるようにした。

津波を受けた1100畧の水田の復元をどうするか②津波、放射線被害、風評被害を受けた農家の営農再開条件と復興を支える新たな担い手像を示してほしい③放射能汚染地域の農業の再開をどう進めたいのか——の三つであった。

の復元技術が開発され普及が試みられた。東京農大方式の土壌改良技術は、国や県が一般的に推奨していた方法と異なるため、この技術を採用するか否かは農家の判断にまかされた。幸いにも1戸の農家が手を挙げてくれた。早速、1・7畧の被災水田を実証田としてお借りし、東京農大方式で2012年に実証し、10畧当たり600kgと平年作を上回る収量を実現した。さらに、心配された放射能についても全く問題がなく、安全が確認された。われわれは東京農大方式で生産された米を「そま復興米」と命名して、自ら販売促進活動を展開し復興の成果をPRした。13年度には50畧

3億円の支援金を確保した。この支援金で相馬市はトラクター18台、汎用（はんよう）コンバイン6台および作業機を購入して、被災農家に貸し出すという取り組みを行い、12年度からの営農再開を可能にした。

また、復興の担い手となるべき経営としては、集落営農や農業法人の重要性を指摘した結果、相馬市はヤマト財団の支援で購入した農業機械を貸し出すための条件として、法人組織の結成を義務付けた。その結果、合同会社タイプの農業法人3社が結成され、相馬農業復興の新たな担い手として活動を展開していくことになった。

「山村再生プロジェクト」を通じた実学教育と地域再生

研究室 紹介 Introduction >>>> 29

食料環境経済学科 国際農業・貿易研究室 立岩 寿一

国際農業・貿易研究室は多くの教育・研究を実施しているが、一例として前身研究室から続き、学部レベルのプログラムとなった取り組みを紹介する。

20年の歴史と延べ数千人の参加のある取り組み

平成5年、当時の農村経済研究室は実学教育実現のため、現場との連携をより深めた学生教育・研究を目指して長野県長和町の地域活性化グループとの協働による植林・特産物販売などによる交流を開始した。この交流は15年の継続を経て平成20年度に文科省の「質の高い大学教育支援事業」に採択され、主な実施学科を食料環境経済学科とし、学部レベルの交流にまで発展した。文科省補助終了後も独自のプログラムとして継続している。また、長和町からも補助を受け、個人の寄付、人的支援なども活用し、受験生向けアピール、農大の社会的使命の実現、学生満足度高揚、帰属意識の涵養（かんよう）等々、多面的意義を付与したプログラムとして継続し、参加した学生数は延べ数千人に上る。



祭りに参加し、みこしを担いだ農大生



復旧した遊休農地での田植え

プロジェクトの内容

この「山村再生プロジェクト」では、遊休農地を再生し特産品生産や作物栽培を経験する「遊休・荒廃農地活用実習」、自然資源を保護し活用する「自然資源保護・活用実習」、食文化や伝統文化を活用する「食文化活用実習」、「伝統文化活用実習」、「歴史資源活用実習」などを実施し、それらをプランとしてまとめる「地域再生プランニング実習」を行う。学生たちの意見を聞き、住民の声を聞き、東京農大教育支援協議会のチェックを受け、学生が主体となってプランを考え実行するというプロジェクトを通して、「実学主義」、「人物を畑に帰す」農大教育・研究の具現化を図り地域再生に役立つ人材、社会に役立つ人材の育成を目指している。



荒れた森林を復旧しようと地元の方々植林をした

農業経営チームは、ばらばらになった被災農家を1戸1戸訪ねて、営農再開意向を調査した。その結果、津波被災地域の営農を大きく阻害するのは被災した農地の復元と農業機械の確保、とりわけ津波で消失した農業機械の公的な整備と農家への無償提供が重要であることを提言した。この提言を受けた相馬市は、すぐに活動を実施しヤマト福祉財団が実施する「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」事業に応募

4年間にわたり相馬地方で展開した東京農業大学の東日本支援プロジェクトは、津波被災農地の復元、放射能汚染地域の復興、森林の放射能汚染のメカニズムの解明、農地一筆を単位とした放射能モニタリングシステムの開発など、被災地の復興・復興に貢献できる成果を実現し、地域の人々から大きな信頼を得ることができた。

その結果、枝葉や樹皮の部分に付着した放射性物質は樹木の内部にまで浸透していることがわかった。こうした状況の中で、森林や柿園の除染方法としてカリウム散布の有効性、柿の木の中に浸透したセシウムの除去方法に関する技術について試行錯誤した。土壌肥料チームは、土壌に高濃度に蓄積したセシウムを作物が吸収しない技術の開発に取り組んだ。具体的には吸収抑制資材としてカリウムとゼオライトの活用方法の検討を行い、効果的な施用方法を解明して農家に提案した。農業経営チームは、農地一筆を基本とした放射性物質のモニタリングシステムの開発に、放射能汚染が深刻な問題となっていた相馬市玉野地区を対象に取り組んだ。水田、畑、牧草地の放射能汚染の実態を把握するとともに、除染効果の評価、放射性物質吸収抑制技術を適用した場合の効果の評価できるようにした。

創立125周年記念事業資金募金のお願い

東京農業大学 東京農業大学短期大学部
学長 高野 克己

日ごろから、卒業生の皆さまにおかれましては、本学に対するご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

平成26年度学位記授与式では、3キャンパスの大学院、大学、短期大学部を合わせて、3426人の卒業生を社会に送り出し、今年で創立123年を迎えた本学の卒業生総数は、16万3000余人と伺っております。

平成27年度入学式では、推薦入試なども含めた入学志願者数総計3万人からの難関を突破した3446人の新入生を受け入れました。

本学の学びと研究の原点は「農」にあります。「農」を基本とし、生みの親・榎本武揚公と育ての親・横井時敬先生の思いを実現するため、本学の教育研究の理念である「実学主義」の下、農学系総合大学として大きく発展しています。

これも諸先輩方のご努力とご活躍があってこそこのたまものと感謝申し上げます。

さて、すでに多方面から記念事業の募金のお願いを申し上げますが、創立125周年記念事業として「東京農業大学国際センター」を建設いたします。これは、グローバル社会において本学が世界の農学系研究の拠点大学として、確固たる地位を確立し、さらに飛躍するために必要不可欠なミッションと位置付けています。

私が一昨年7月学長に就任した際、東京農業大学の七つのビジョンを掲げました。「学生に愛される農大」「教育で評価される農大」「研究で評価される農大」「地域に貢献する農大」「社会・産業に貢献する農大」「世界に貢献する農大」「卒業生に愛される農大」の七つです。特に最後に掲げた「卒業生に愛される農大」となる志に向けて、これからも日々努めて参ります。

母校、東京農業大学にぜひとも、本趣意にご理解・ご賛同いただき、重ねてのお願いとなりますが、卒業生の皆さまからのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(注)東京農業大学創立125周年事業資金募金のご案内パンフレット(銀行口座の払込票)を同封しましたので詳細を参照してご協力ください。また、募金趣意書、JA・銀行口座払込票などご入用の際は大学の財務部募金課にお問い合わせください。

東京農大経営者フォーラム2014 優れた校友経営者に大賞



経営者大賞ならびに経営者賞を受賞された方々

2000年から毎年開催されている「東京農大経営者フォーラム」も今年で15回目となった。このフォーラムは、優れた経営者として各界で活躍する校友に対して、校友会支部(都道府県および海外)・学科・東京農大経営者会議いずれかの推薦と経営者大賞審査委員会における厳正な審査を経て、「東京農大経営者大賞」

および「東京農大経営者賞」を贈呈するもの。ビジネスの世界で優れた功績を残してきた卒業生の栄誉をたたえるとともに、その活躍を広くアピールするまたよい機会となっている。

経営者大賞受賞者

- 尾村 敦司 氏(生物産業学部産業経営学科 平成5年3月卒業)
- 佐伯 誠 氏(農学部農業工学科 昭和49年3月卒業)
- 西村 亮彦 氏(農学部林学科 昭和36年3月卒業)

東京農大経営者賞

- 吉原 一成 氏(短期大学部農業科 昭和52年3月卒業)

また、その成果は、国際バイオビジネス学科が中心となって「東京農大大型バイオビジネスケース」にまとめられ毎年出版されてお

り、在学生の学習や卒業生の実務に広く活用されている。東京農大経営者フォーラム2014は平成26年11月28日、百周年講堂で開催され、まず、授賞式では「経営者大賞」受賞者3人および「経営者賞」受賞者1人に対し、高野克己学長からそれぞれ賞状と記念品が授

与された。経営者大賞に輝いたのは、栃木県小山市の尾村敦司氏(生物産業学部産業経営学科平成5年3月卒業・(株)菜匠代表取締役)、山口市の佐伯誠氏(農学部農業工学科昭和49年3月卒業・三笠産業(株)代表取締役社長)、富山県南砺市の西村亮彦氏(農学部林学科昭和36年3月卒業・チューモク(株)代表取締役会長)の3人。経営者賞は栃木県日光市の吉原一成氏(短期大学部農業科昭和52年3月卒業・イッセイ花園代表)の1人だった。続く経営者大賞受賞者による受賞講演では、学生時代の思い出、新人社員時代や起業の苦労話、ビジネス成功の秘訣(ひけつ)など、いずれも熱意あふれる講演が行われ、学生、教職員、一般参加者約1200人が熱心に聞き入った。



3人のパネリストによる実践報告が行われた

校友会も東京農大経営者フォーラム主催団体であり、各支部は推薦母体ともなっている。今後とも校友諸氏のご協力・ご支援を賜りたい。

第9回「食・農・環境」教育フォーラム 農業参入への道筋報告

「新規就農への道筋とその支援」を討議テーマに、第9回「食・農・環境」教育フォーラムが、平成26年12月10日に本学・世田谷キャンパス内で開かれ、生・教員ら約700人が参集した。主催は、食料環境経済学科や国際バイオビジネス学科の教員で構成される「食農環境」教育研究プロジェクトなど。

今回のフォーラムでは、非農家出身者の農業への新規参入を議論の対象とし、農地・資金・地域社会との関係などにおいて、いわばゼロからの出発で、どのように農業経営の開始とその定着を実現させるのか、また、関連制度の活用や先進者による組織的なサポート

の内容などを検証した。基調報告に続いて、3人のパネリストがこれまでの実践などに基づいて報告を行った。まず、(有)木之内農園(熊本県阿蘇村)会長の木之内均氏は、「農業経営の魅力とその起業・成功への道しるべ」と題して報告した。大学で学ぶことの意義など教育的な視点を多分に含ん

だ言及があり、また、本学の農友会村の会部の農業実習を長年受け入れてきた経過にも触れた。次に、長野県農政部農村振興課の原啓一郎氏は「新規就農をめぐる支援活動と関連制度の活(い)かし方」と題し、同県の推進する新規就農者育成施策の一環である「里親制度」などを説明した。

タイへ交流視察団 タマサート大と学術協定調印

校友会本部は平成26年12月1日から12月5日、校友ら17人をタイ支部交流視察団としてタイ王国に派遣した。国立タマサート大学を訪問し、学術協定に調印。また校友会タイ支部との交流を深めた。これは国際交流事業の一環。昨年の台湾に引き続き行われたもの。

同大学と本学との学術協定の調印式は2日に行われた。本学からは志和地弘信国際協力センター長、タマサート大学からはパコーン教授、本学出身で校友会タイ支部長のソムチャイ准教授、同じく本学出身のニパ

東京農業大学が締結した学術協定などの一覧 (9月30日~3月末まで)

- 9月30日 生物産業学部と日本農業経営大学校が連携協力に関する協定を締結。次世代の農業を担う人材育成などの分野で相互に協力、農業経営教育・調査研究を通じ地域社会・経済の持続的発展に寄与。
- 11月26日 東京農業大学および佐賀大学の関係諸学部ならびに韓国の忠北大学校、韓国農水産大学校、農協大学校が教育プログラム推進にかかる国際的な相互協力の協定を締結。
- 12月2日 国際食料情報学部はタイ国タマサート大学科学技術学部と学術協定を締結。ランジット・キャンパスで志和地国際協力センター長とパコーン教授が署名。この調印式には校友会タイ支部交流視察団一行も立ち会った。
- 1月19日 生物産業学部と茨城県行方市が包括連携協定を締結。農業の持続的発展および地域活性化と人材育成を基本に産業振興、起業、まちづくりなどの分野で協力。黒瀬学部長と本学OBの鈴木行方市長が協定書を取り交した。
- 2月20日 ミャンマー連邦共和国イェン農科大学と学術協定を締結。
- 3月9日 生物産業学部と株式会社マイファームとの包括連携協定を締結。食と農における6次産業化、農商工連携、人材の育成・養成、新産業の創出、農産物・共同開発商品の生産・販売の相互交流が目的。西辻社長が耕作放棄地の再整備、新規就農者の育成と支援体制を目的に設立されたベンチャー企業。昨年11月世田谷区経堂に「八百屋マイファーマー」をオープン、農大生インターンシップの場所としても活用が期待される。



タイ国立タマサート大学との協定調印式

サート大学のキャンパスを表彰訪問した。同大学のソムバット副学長の歓迎を受けた。キャンパスでは10日間で150万人もが来場するという農業祭が行われており、一行はスケールの大きさに圧倒された。また、一行はパノックのエメラルド寺院を見学するなど、タイ文化への理解を深めた。

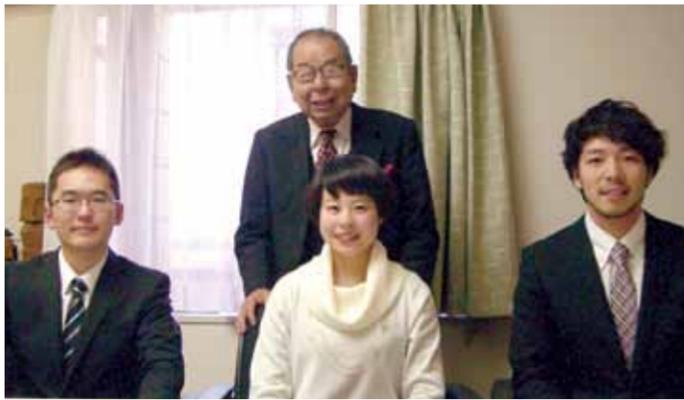
校友会会長のキャンパス訪問

世田谷キャンパス
地域環境科学部の
学生に聞く

前回に続き世田谷キャンパスを訪問。森林総合科学科4年の石井宏一郎君、生産環境工学科3年の中嶋香苗さん、造園科学科3年の森屋佳泉君が校友会三好吉清会長と勉学・研究など学生生活について語りあった(2月2日)。

三好 今日皆さんが地域環境科学部の各学科にどのような目的で進学し、どのようなことを勉強し、またこれから、社会人としてどのような方向に進む希望をお持ちなのかをお伺いしたいと思います。

石井 今、4年生で4月から大学院に進学します。森林経営学研究室に所属し卒業論文の執筆で忙しい毎日です。実家は北海道森町で約30年の林業の仕事をしています。取引先の農



石井 宏一郎 (写真左) 森林総合科学科4年
大学院で研究を続ける
中嶋 香苗 (写真中央) 生産環境工学科3年
省エネをしっかりと学ぶ
森屋 佳泉 (写真右) 造園科学科3年
収穫祭で統一委員長も



な知識と技術を身に付けます。

森屋 3年生からは興味ある分野の研究室を選び、実習や座学を行います。森林や林業をさまざまな視点から勉強します。奥多摩演習林での実習もあります。その後は研究室で実習しながら卒業論文のテーマを決定して研究を進めていきます。

中嶋 環境に優しい農業生産技術を開発させるために工学的視点からアプローチし、機械工学や土木学

大O Bの方からの勧めがあり、森林総合科学科を志望し入学しました。将来は後継者として林業で生活していく考えです。

中嶋 東京都狛江市出身で実家は映像機器システム関係の開発、企画、販売などの仕事をしています。中学のころから環境問題に興味を持っていました。さまざまな大学を見て歩き、農大がごみの分別や省エネに取り組んでいたところに引



は、1年生、2年生は森林総合科学科概論などで森林学の基礎を学びながら森林土壌実験、森林地形解析など多くの実験・実習を行います。さらに木材の利用、山地の土壌移動といった専門的な事例に触れて、実践的

三好 皆さんは、どのようなことを勉強しているのですか？

石井 森林総合科学科では、1年生、2年生は森林総合科学概論などで森林学の基礎を学びながら森林土壌実験、森林地形解析など多くの実験・実習を行います。さらに木材の利用、山地の土壌移動といった専門的な事例に触れて、実践的

の開発にチャレンジしていません。バイオロボティクス研究室に所属し電動式農業システムと農用運搬車の開発を研究しています。具体的には、ロボット農業に適した耕うん・栽培方法の提案をしています。

森屋 造園科学科は実習やグループワークが多いため、友達が増え学科全体の雰囲気がとても明るいです。

中嶋 全学応援団チアリーダー部に所属し、野球やボクシング、陸上をはじめ相撲や弓道などさまざまな部活の応援活動をやっています。勝利に導くため常に全力で応援しています。またチアリーディングでも、全国大会へ向けての練習と世界大会への出場権をかけて、部員一丸となって頑張っています。

三好 卒業後の進路と自己PRは？

石井 本学の大学院に進学して森林経営学研究室での研究を続けたいと思っています。何事にも積極的に取り組む、責任感を持って行動します。強いリーダーシップを持っており、先頭に立って取り組み、自分の思っていることを人に伝えることが得意です。将来は林家から林地の管理を請け負う素材生産を手掛けたいと思っています。

中嶋 省エネを意識したエネルギー事業分野を希望しています。自分をアピールするとすれば、何事にも積極的に挑戦し、それが困難なことでも最後までやりぬく根性があります。さまざまなことに興味を持ち、常に向上心を持って行動します。

森屋 造園業を希望していますが、他人の飯を食うことも必要かと考えています。造園カントリー業といった新しい分野を開きたいの思いもあります。造園科学科統一本部で発揮した強いリーダーシップが自分にはあります。

三好 本学で学んでの感想は？

石井 森林には、環境を守りたいと思う学生が多いです。座学では感じることもできない難しさを感じることによって専門的なことが学べる点が非常に良いと思います。頭で考えるだけでなく、体で知識や技術を習得する実学です。また取得できる資格が多いことも魅力だと思います。

中嶋 大学自体が農大を愛しているところが良いと思います。大根踊りなど伝統を守り、誇りを持っているところも好きです。一方、各部活動の活躍を大学全体で盛り上げていけたらさらに魅力ある大学になると思っています。

森屋 収穫祭や体育祭など、大きなイベントが学生主体で行われていることは素晴らしいことです。学業面では先生方と学生の距離が近く、親近感を持って好きなことが勉強できる点は他大学にはないことだと思います。

三好 誰よりも数多くの経験をして、残り少ない学生時代をぜひ謳歌(おうか)してください。時には校友会にも遊びに来てください。今日はありがとうございました。



「みどりの女神」は、緑や木とのふれあいや活用を通じて、緑と木への親しみを広める役割を担う賞。

食料環境経済学
科3年佐野加奈さんは、1月26日に新宿京王プラザホテルで開催された、第47回ミス日本コンテスト2015で、ミス日本「みどりの女神」を受賞した。また、林野庁から「みどりの広報大使」に任命された。

ミス日本「みどりの女神」に
佐野加奈さん(経済3年)

世界最古の木造建築物である法隆寺や漆器を始めとした日本の木に関わる文化を世界へ発信していく活動を行う予定。

佐野さんは2月23日、高野克己学長を表敬訪問。高野学長と小泉幸道副学長、夏秋啓子副学長、友田清彦国際食料情報学部長、金子忠世田谷キャンパス学生部長に受賞の報告をし、今後の活動への意気込みを語った。



すでに学内に6次化の種はたくさんあり、それを上生時代をぜひ謳歌(おうか)してください。時には校友会にも遊びに来てください。今日はありがとうございました。

食農の匠 東京農大魂 逸品堂シリーズ2
東京農大校友会 編

本書は好評の前作『醸す人』に続くシリーズ第2弾。今回は、東京農大の卒業生が全国各地で先進的な農業、とりわけ6次化に取り組み経営者をまとめた。自らの風土と農業の姿を語り、生産品と販売所まで掲載している。

卒業生16万余人を数える東京農大。多くの卒業生を農業分野に排出。加工・流通・販売を含め、その守備範囲は極めて広い。

これから6次化を目指す人、現在取り組んでいる人の参考に、また卒業生には仲間の消息を知る懐かしい1冊でもある。

定価2000円(税別)
東京農業大学出版会(電)03(54717)26966。



「新キャンパス緑化整備基金」の贈呈式

同窓会を、今回は50周年記念同窓会として開催した。出席者は久方ぶりの参加者あり、同伴家族も含めて総勢51人であった。

会場には、随所に画像やついでなどに学生時代の思い出写真が多数展示され、卓上パソコンからはいまだ血気盛んな30周年記念祝賀会(会場同じ)の模様や、地方巡りの造八期会の動画が流れ、大好評を博した。これが貴重な写真と映像は、一会員の手でDVDディスクに加工編集され、

50周年記念品として持ち帰ってもらった。締めは、肩組み合せて学歌を斉唱した。恒例の「青山ほどり」はライオンダンス風に踊った。



造八期会の皆さん(ホテルニューオタニで)

造園学科八期生が50周年記念同窓会

昭和39年卒業の「造八期会」は、毎年開催してきた同窓会を、今回は50周年記念同窓会として開催した。出席者は久方ぶりの参加者あり、同伴家族も含めて総勢51人であった。

かつての世田谷村を駆け足で辞去したあとは、東京スカイツリーを見学、船上から隅田川を巡り散会となった。

昭和41年卒業(醸造学科)であり、他社に就職することなく、実家に戻り酒造業を手伝った。そのころは清酒製造業も順調で、資金繰りの心配もなく、酒造りをしていた。趣味のゴルフも楽しむ余裕があった。自分で言うのもはばかられるが、一時はプロゴルファーになろうと思った時期があった。だが、1日のパットに苦しみ諦めた。今では健康のために月に1、2度コースに出るのが楽しみである。歩ける間はプレーしたいと思っている。

さて、清酒の話であるが、昭和48年をピークに消費量が減少し始め、平成25年には59万キロとピーク時の3分の1になってしまった。いろいろな見方があるが、食の変

りである。日本人の食が麹(こうじ)とだし文化から肉と油と乳製品の文化へと変わってしまった。当時は食物が不足していたので、喜んで食べたもので、6000年かけて作ってきた

世界の国酒の動向を見てみよう。ドイツでは国酒はビールである。消費量は80・4%がビールである。イタリヤでは国酒はワインである。60・4%消費している。フランス

日本の食文化を取り戻そう



た日本人はいなくなってしまうのではないだろうか。大層危惧している。日本酒造組合中央会長のとして、国酒(日本酒)を愛飲している。日本はどうか。日本酒は6・5%のみりなど2種を合わせたも13%にとどかない。

125周年記念募金のお願い

東京農業大学では大学創立125周年記念事業資金の募金活動を行っています。校友会も2億円を目標に活動し、3月末で約1億円の実績となっています。同封のパンフレットを参照のうえ、母校の発展のために協力をお願いいたします。

スポーツ振興基金への募金業務を大学に移行

平成7年から校友会が実施し、現在準備を進めています。新募金制度が決まりました。

大学においては新たなスポーツ募金を開始する予定で現在準備を進めています。

箱根駅伝、硬式野球および相撲など農大スポーツの強化のため、校友の皆さまには協力いただきありがとうございます。

「東京農業大学校友会」のホームページ(HP)には、本部情報(本部主催の会議などのご案内)、校友会組織(本部役員、支部役員など)、各支部活動(総会および分支部活動)の開催予定・結果など、校友会からのお知らせ、同窓会・クラブOBの開催など最新の情報を紹介してまいります。これから順次更新し、皆さまにお知らせしてまいります。

「同窓・同期会」の開催は、紙面の都合でHPに掲載しますので、開催情報の提供(5000字以内の記事と写真のデータ)をお寄せください。

支部総会開催一覧表 (平成27年3月末現在)

支部名	開催日(曜日)	出席者		参加者数	場所	講演等
		校友会	大学			
兵庫	10月12日(日)	三好吉清会長	夏秋啓子副学長、古古勇治法人本部長	75	神戸市	記念総会講演「和食とは何か」小泉武夫名誉教授
愛知	10月13日(月)	外園惇副会長	小林順募金課長	45	名古屋	「花と緑に囲まれたライフスタイルガーデン」澤登明子(平14卒)
京都	10月18日(土)	外園惇副会長	岡田早苗生物応用化学科教授	13	京都市	「農大が誇る植物性乳酸菌資源とその応用利用の可能性」岡田教授
三重	10月25日(土)	豊原秀和常任理事	高柳和直学長室次長	26	津市	「日本酒を楽しむ」元坂酒造社長元坂新氏
福島	11月1日(土)	横澤馨常任理事	-	27	西郷村	-
秋田	11月8日(土)	尾崎義人常任理事	-	42	秋田市	「由利支部の活動紹介」佐々木利剛(平1経)
石川	11月8日(土)	豊原秀和常任理事	-	52	金沢市	-
福井	11月8日(土)	福島哲男常任理事	穂坂賢造学芸学教授、手島秀樹財務部長	38	福井市	-
大阪	11月8日(土)	三好吉清会長	松丸禎二大学事務局長補佐	31	大阪市	-
山梨	11月14日(金)	小野甲二事務局長	高柳和直学長室次長、小林順募金課長	48	甲府市	東京農大経営者大賞受賞報告 内田多加夫氏
岩手	11月15日(土)	豊原秀和常任理事	小林順募金課長	35	盛岡市	-
北海道	1月24日(土)	外園惇副会長	渡辺俊弘副学長、黒瀬秀久生物産学部長 他	95	札幌市	-
群馬	2月22日(日)	尾崎義人常任理事	門間敏幸国際バイオビジネス学芸学教授、村清司農大二高校長	100	前橋市	「東日本大震災復興支援プロジェクト3年8ヶ月の取り組みと今後の方向」門間敏幸教授
宮崎	2月28日(土)	豊原秀和常任理事	矢口行雄地域環境科学部教授、小林順募金課長	55	宮崎市	-
山形	3月22日(日)	尾崎義人常任理事	-	26	鶴岡市	-

HPアドレス
<http://www.nodai-koyukai.jp/>

校友会ホームページを見てくたさい
 「東京農業大学校友会」のホームページ(HP)には、本部情報(本部主催の会議などのご案内)、校友会組織(本部役員、支部役員など)、各支部活動(総会および分支部活動)の開催予定・結果など、校友会からのお知らせ、同窓会・クラブOBの開催など最新の情報を紹介してまいります。これから順次更新し、皆さまにお知らせしてまいります。

通常総会開催のお知らせ
 平成27年度通常総会(代議員総会)を次の通り開催します。
 日時 平成27年5月22日(金)午後1時
 場所 東京農大アカデミーアセナター横井講堂
ホームカミングデー開催のお知らせ
 平成27年度第15回東京農大ホームカミングデーを次の通り開催します。
 日時 平成27年6月20日(土)午前10時
 場所 世田谷キャンパス(詳細は同封のパンフレットを参照)

平成27年収穫祭日程
 ▼世田谷キャンパス 10月30日(金)~11月1日(日)
 ▼厚木キャンパス 10月31日(土)・11月1日(日)
 ▼オホーツクキャンパス 10月11日(日)・12日(月)

平成26年度東京農業大学校友会表彰団体・個人一覧 (2015年1月16日 於: 校友会館大ホール)

Table with columns: 表彰部 (Award Department), 氏名 (Name), 学科 (Department), 大会日 (Event Date), 大会名 (Event Name), 褒賞 (Award). Lists various sports and academic achievements.

10団体、個人15人を表彰 校友会が第31回激励会を開催



高野学長、三好校友会会長、板垣体連会長、館文連会長による鏡開き

校友会主催の農友会激励懇親会が平成27年1月16日、グリーンアカデミーホールで開催された。...

- List of members and their departments, including names like 叙勲・褒章の栄に輝く校友 (平26年) and various regional branches.

会員の動静



飯野摩耶選手と校友会役員



会長表彰を受けた選手一同

次に、日本選手権、全日本、東日本・関東大会で顕著な成績を収めた10団体および個人15人が表彰された。...

校友会功労表彰者 - 退任幹事長. List of names and dates for former officers and their service periods.

訃報 学校法人東京農業大学前理事長 元東京農業大学学長・東京情報大学学長 松田藤四郎先生が平成27年3月22日逝去(享年83歳)されました。

- 次(の)校友会のご逝去されました。 (支部などからの報告で掲載) 神谷 学氏 (昭56秋) 神奈川支部・中井町 11月9日...

農友会 活動

体育団体

相撲部 強化指定部

第39回全国学生相撲個人体重別選手権大会 (平成26年9月21日、大阪府堺市大浜公園相撲場)
▽75kg未満級 中畑裕雅 (森林2) ベスト8▽75kg未満級 千葉翔太 (工学1) ベスト8▽85kg未満級 エンフバヤル (ヒジメス2) ベスト8

世田谷キャンパス硬式野球部 指定強化部

東都大学野球秋季リーグ戦 2部 (平成26年9月20日～10月20日)
3勝9敗勝点1で6位 (最下位)。
2部3部入れ替え戦 (平成26年11月12～13日)
対大正大2戦2勝で2部残留。

オホーツク生物産業学部硬式野球部 指定強化部

北海道六大学秋季リーグ戦 (平成26年8月30日～9月29日)
10勝0敗で2季24回目のリーグ優勝。

陸上競技部男子 指定強化部

第9回かさね陶芸の里ハーフマラソン大会 (平成26年12月21日、茨城県常陸芸術の森公園)

明治神宮野球大会北海道地区代表決定戦 (平成26年10月4～6日)
札幌六大学野球優勝の道都大学と対戦。2勝1敗で優勝、北海道地区代表として第45回明治神宮野球大会に出場が決定した。

第45回明治神宮野球大会 (平成26年11月15日～19日)
4年ぶりの2度目の出場を果たした東農大オホーツクは準決勝で駒沢大学に敗れ、初の決勝進出を逃したが、初の4強に輝いた。
1回戦 京都産業大学3対0、2回戦 上武大学3対2、準決勝 駒沢大学0対3



第45回明治神宮野球大会で準決勝に進んだ東農大オホーツク野球部



ヤクルトから2位指名された風張選手(右から2人目)

風張選手がヤクルトから指名

平成26年10月23日に行われたNPBドラフト会議で、

風張選手(右手県立伊保内高校出身・産経大)が、東京ヤクルトスワローズにドラフト2位で指名された。

▽木山雄生(開発2) 優勝▽高橋悠平(工学1) 準優勝▽遠藤悠平(森林3) 3位
ニューイヤード(平成27年1月1日)
本学OBが3人出場。
椎谷智広(トヨタ紡織・第4区)、三輪晋太郎(N・T・N・第4区)、保坂優介(八千代工業・第5区)
第91回箱根駅伝 (平成27年1月2日)
第91回箱根駅伝の関東学生連合チームに本学から浅岡満憲(開発4) が出場、第1区を走り17位。
第20回全国都道府県対抗男子駅伝 (平成27年1月18日)
本学から3選手(竹内竜馬・造園4 山形7区、浅岡満憲・開発4 岐阜3区、戸田雅稀・食経3 群馬7区) が出場。4月に本学進学が決まっている高校生2選手(小山直城・埼玉県立



第32回全日本大学女子駅伝対校選手権大会1区の小堀真佳選手(左端)

10月26日)
関東大学女子駅伝で3位となりの2年連続22回目の出場となった宮城県仙台市での全日本大学女子駅伝(杜の都駅伝)において、目標としていた8位以内のシード権獲得にはあと一歩及ばなかったが総合9位と健闘した。この順位により2014全日本大学女子選抜駅伝(富士山駅伝)への出場権を確保した。スタート地点の仙台市陸上競技場では全学応援団の盛大な応援と、沿道では校友会宮城県支部の校友30数人の集団応援で選手に大声援を送った。レース終了後の報告会では、渡邊康夫支部長が一層の活躍を期待すると激励した。

伝大会(平成26年11月30日、栃木県)
標高差約875mの過酷なコースでの初大会に本学から2チームが出場、Aチームはエースの飯野を第1区に起用。2位に25秒差をつけ2区にたすきをつなぎ、アンカーまで終始トップをキープ、2位大東大に2分22秒の大差をつけて優勝した。Bチームは全員4年生編成で出場、7位と健闘した。校友会栃木県支部の校友20数人が集団応援、終了後、鈴木宗之支部長が一層の活躍を期待すると激励した。
▽Aチーム優勝
1区 飯野摩耶(経済3) 区間1位、2区 小堀真佳(栄養2) 区間1位、3区 佐藤ひとみ(化学3) 区間2位、4区 内藤香菜(栄養2) 区間2位、5区 古屋夏乃(経済2) 区間2位、6区 中村瑠花(栄養3) 区間1位
▽Bチーム7位

松山高 埼玉4区、金子鷹・長崎県立諫早高 長崎5区)も出場、小山は区間賞の走りて埼玉県の初優勝に貢献した。校友会広島県支部(高橋敬明支部長)の校友ならびにその家族30数人が「母校・東京農大ここにあり」と整然と松葉緑ののぼりを引き立てて応援、母校・農大を強烈にアピール。出場した選手に高橋支部長が宮島の厳島神社で必勝祈願した「しゃもじ(飯とる)」と「もみじまんじゅう」を贈り、力強い走りを期待した。

陸上競技部女子 指定強化部
長崎がんばらば国体(第69回国民体育大会) (平成26年10月20日)
▽成年女子1500m 山梨県代表、飯野摩耶(経済3) 7位入賞
第32回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 (平成26年10月26日)
1区 小堀真佳(栄養2) 区間9位、2区 佐藤ひとみ(化学3) 区間11位、3区 飯野摩耶(経済3) 区間3位、4区 内海あや(栄養3) 区間15位、5区 中



第1回日光いろは坂女子駅伝大会で優勝したAチーム

沿道では、校友会静岡県支部の富士宮市、富士市の皆さんが各ポイントでダイコンと松葉緑ののぼりを掲げ盛大に応援した。
1区 飯野摩耶(経済3) 区間1位、2区 佐藤ひとみ(化学3) 区間9位、3区 小堀真佳(栄養2) 区間2位、4区 中村瑠花(栄養3) 区間14位、5区 内藤香菜(栄養2) 区間8位、6区 堀川はる菜(開発3) 区間13位、7区 古屋夏乃(経済2) 区間8位



2014全日本大学女子選抜駅伝(富士山女子駅伝)



東京マラソン2015の女子準エリートの部で優勝した大和田啓実選手



優勝した田嶋叶選手

第33回全国都道府県対抗女子駅伝競争大会(平成27年1月11日)
飯野摩耶(経済3)が山梨県代表として出場、区間14位。
相模湖駅伝(平成27年1月12日、神奈川県)
1年生を主体に2チームが出場。Aチーム優勝、Bチーム準優勝。
千葉クロカン(平成27年2月8日)
シニア女子6月の部に5人出場。
▽一般女子の部8ヶ所 飯野摩耶(経済3) 19位、古屋夏乃(経済2) 53位
富士宮駅伝(平成27年2月8日)
戦の部II準優勝
東京マラソン2015(平成27年2月22日)
女子の部II Aチーム優勝
▽女子準エリートの部II 優勝、大和田啓実(経済4) 2時間46分39秒
第33回三浦国際市民マラソン大会(平成27年2月22日)
▽ハーフマラソン女子の部II 優勝、田嶋叶(経済1) 1時間17分45秒
▽女子準エリートの部II 優勝、大和田啓実(経済4) 2時間46分39秒
第33回三浦国際市民マラソン大会(平成27年2月22日)
▽ハーフマラソン女子の部II 優勝、田嶋叶(経済1) 1時間17分45秒
名古屋ウイメンズマラソン2015(平成27年3月8日)
▽上田美鈴(管理4) 109位
第16回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会兼ユニバーシアード日本代表の選考会(平成27年3月15日、島根県松江市)
▽中村梨花(栄養3) 13位
▽古屋夏乃(経済2) 20位
▽堀川はる菜(開発3) 35位

近年激戦の男子は、春季準優勝・秋季第3位、女子は春季2部リーグ優勝、1部に昇格して秋季第4位と健闘した。
2014年男子ホッケー日本リーグII 12チーム(平成26年7月12日〜12月21日)
2勝1分8敗と11位に終わった。
男子第63回・女子第36回全日本学生ホッケー選手権大会(平成26年11月1〜5日)
男子は1回戦対武蔵大に9対0の大差で勝利。2回戦対明治大1対1の同点SO戦となり0対3で敗れた。女子は1回戦で天理大に敗れた。
U21男子日本代表マレーシア遠征メンバーに選出
青山力也(開発1)が遠征メンバーに選出され、マレーシアジュニアチームと対戦した。チーム監督として坂本美さん(昭56造船卒)が指揮した。
勝▽ライト級II佐川遼(ビジネス3) 準優勝
第84回全日本アマチュアボクシング選手権大会(平成26年11月20〜23日、和歌山県)
▽ライトウェルター級II 斎藤一貴準優勝▽フライ級II 金澤宣明(ビジネス2) 3位▽バンタム級II中野幹(ビジネス4) 優勝



長崎国体で優勝した斎藤選手④と2位の佐川選手



U-21ホッケー男子日本代表マレーシア遠征選手団の青山選手(前列左から2人目)と坂本監督(後列左端)

ボクシング部
第69回国民体育大会ボクシング競技会(平成26年10月13〜17日、長崎県)
▽ライトウェルター級II 斎藤一貴(ビジネス4) 優勝
第49回全日本アマチュアボクシング選手権大会(平成26年11月20〜23日、和歌山県)
▽ライトウェルター級II 斎藤一貴準優勝▽フライ級II 金澤宣明(ビジネス2) 3位▽バンタム級II中野幹(ビジネス4) 優勝

馬術部
ホーストライアル(平成26年10月4〜5日)
▽吉田匡慶(ビジネス1) 4位
第49回オリンピック記念馬術大会(平成26年10月11〜12日)
▽東京障害飛越競技I 0〜III準優勝II和田健太郎(ビジネス1)
六会ホースショー2015

第86回全日本学生馬術選手権大会 第4位 吉田匡慶(ビジネス1)
平成26年12月21〜22日、全日本学生馬術連盟に所属する全国の大学馬術部(80校)から各地区アロックスを勝ち抜いた32人の選手が、本学向かいにあるJRA馬事公苑(こうえん)で個人の力量を競う最高の舞台でしのぎを削った。
団体戦とは異なり、関東学生馬術協会所属の各大学から貸与された馬匹を使っている個人戦は、見ず知らずの馬に騎乗しての戦いとなり、やはり経験が物を言う。「人馬一体」という言葉に表わされるように、馬との息が合われないと思ふような結果が得られない。
トーナメント方式で行われ、馬場馬術、障害馬術を代わる代わる行いながら勝ち進まなければならない。

出場した吉田はまだ1年生ながら、各大学の上位生を相手に奮闘し1回戦、2回戦、準決勝、決勝へと駒を進めた。決勝では明治大学、早稲田大学、同志社大学の選手を相手に馬場2演技、障害2走行を戦ったが、惜しくも4位となった。



障害馬術競技の決勝。馬は明治大学の明雪号

平成27年1月8日)▽個人II中津津乃(バイオ3) 最優秀選手賞▽団体優勝
第35回スクーリングジャンプ&ドレッサーシジュPARTE 1(平成27年2月14〜15日、JRA馬事公苑)
▽東京障害(しょうがい) 1-0-4 II吉田匡慶(ビジネス1) 優勝、佐竹宏太(ビジネス3) 準優勝
第60回関東学生剣道新人戦大会(平成26年11月23日、東京武道館)
参加大学90大学中、優勝した日体大に大将戦で惜しくも敗退、5位(敢闘賞)に入賞した。

団体戦とは異なり、関東学生馬術協会所属の各大学から貸与された馬匹を使っている個人戦は、見ず知らずの馬に騎乗しての戦いとなり、やはり経験が物を言う。「人馬一体」という言葉に表わされるように、馬との息が合われないと思ふような結果が得られない。
トーナメント方式で行われ、馬場馬術、障害馬術を代わる代わる行いながら勝ち進まなければならない。



第60回関東学生剣道新人戦大会で敢闘賞を受賞した剣道部

弓道部

東京都学生弓道リーグ戦



樋山平理選手(造園4)

(平成26年9月14～10月26日) 男子3勝1敗、女子は4

男子3勝1敗、女子は4

文化団体

社交ダンス研究部



第109回東都大学学生競技ダンス選手権大会スローフォックストロットで優勝した丹野雄介・新井翔子組

第109回東都大学学生競技ダンス選手権大会(平成26年10月19日)

▽スローフォックストロット優勝||丹野雄介(経済4)・新井翔子(栄養4)組

第46回天野杯争奪学生競技ダンス選手権大会(平成26年11月9日)

▽ラテンの部総合3位入賞||中村公紀(経済3)・大塩香澄(栄養3)組

第48回全日本学生大会(平成26年11月30日)(日本武道館)

少林寺拳法部

勝で、男女共3部優勝。女子は入れ替え戦で勝利、2部昇格が決定。

オホソラ支部カーリング部

第5回全日本大学カーリング選手権大会(平成26年11月22～24日)

男子2年連続準優勝

第27回関東学生ラクロス

ラクロス部

第91回理工系大学学生競技ダンス選手権大会(平成26年11月23日)

▽モダンの部総合3位入賞||林宗親(森林3)・藤井ひとみ(バイオ3)組

第37回ツバメ杯争奪学生競技ダンス選手権大会(平成26年12月21日)

▽ジュニアラテンの部

Overture vol.5 他全11曲を演奏、観衆を魅了した。



第5回全日本大学カーリング選手権大会で準優勝

OBの活躍



NPBドラフト会議でOBの高木洋(埼玉)...

有限会社 農大桜丘 (保険代理店)

皆さんの安全を補償する保険に加入を...

ホープ紹介

箱根に期待の新人 小山直城選手



駅伝・長距離に有望新人12人が入部した。その一人が小山直城選手だ。

分13秒の区間賞、埼玉県チームの初優勝に貢献。

東京農大校友会ホームページを開いて見よう! http://www.nodai-koyukai.jp/

グリーンアカデミーホール - 校友会館 - 校友皆様のご利用を

編集後記 スポーツ強化で多くの校友に喜んでもらえる環境をつくり、強化していく」と高野学長が語った。

